活動報告

イルカを通して「海洋と人の共存」の在り方を考える

田中　一秀*

2022年夏，日本海で一頭のイルカが，ニュースを騒がせました.「イルカにかまれた人は計20人に，被害続出の福井市，海水浴シーズン終了 来季もまた来る恐れ（東京新聞より)」．内容は福井市の3つの海水浴場で今夏，海水浴客がイルカに噛まれる被害が続出し，けがをした人は少なくとも20人に達した，というものでした.

人に噛んだイルカの種類は「ミナミハンドウイルカ」という種類のイルカで，近い仲間のハンドウイルカと言えば水族館のイルカショーで登場するイルカとしてとても身近で，海洋生物の中でも特に愛される人気の高い生き物です．そのため今回のこの事故事例は，多くの人にとってショッキングな出来事であったのではないかと思います.

「海洋と人の共存」達成のために，野生生物としてのイルカとは私たちはどのような距離感で共存していくことが適切なのか，この事例をきっかけに改めて考えてみたいと思います.

イルカは，広い海洋で生活していることが本来の姿です．見た目がかわいいから人を噛むことなんて絶対にしないという考えは，人が一方的に作り出した先入観イメージといえるのです.

この状況の場合は野生のイルカが生活する場に,私たちヒトが,無知なまま近づきすぎてしまったと推察することができます.

水族館施設で，トレーナーと息を合わせてパフォーマンスを行い，人懐こいしぐさを見せることのイメージを，知らず知らずのうちに野生のイルカに対しても押し付けてはいないでしょうか.

海洋生物を深く知る現地ダイバーの方々に，水中で鉢合わせた時の状況を教えて頂きましたが，イルカはこちらを襲うつもりで攻撃してきたわけではなく，好奇心でじゃれてきたり，発情してすり寄ってきたということでした（写真1).

写真1　オスのミナミハンドウイルカ「すずちゃん」がダイバーに発情している状況
（写真提供 ©Sea More）

* サイエンスイラストレーター／成蹊学園サスティナビリティ教育研究センター客員フェロー

そして人が何度も何度もイルカに好意的に繰り返し近づくことで，人に対する警戒心は薄れ近づいて来るようになってしまったのでしょう．

人に慣れてしまう事例は，陸でも熊や鹿などの野生動物でも同様に見られます．ただイルカは，とても大きな歯を持ち，強いアゴを持つ生物です．小さな小型犬ではありませんし，ましてそこは海であり，海では有事の際，人は，いとも簡単に溺れてしまう危険性の高い場所です．イルカ自身にとってそんなに力を入れて噛んでいなくても，人にとっては致命傷となってしまいますし，身に着けているダイビングの器材に興味を持ったイルカに，水中で呼吸するためのエアーホースを口からはずされてしまうというリスクも存在します．

今回の事例では，陸で生活する私たち人間，そして海で生活する野生のイルカ，本来出逢わないはずの両者の距離が近すぎたことで起きた事故と言わざるを得ません．野生のイルカに，ここは海水浴の場所だという理屈は，通らないのです．

海洋と人がうまく共存していく為にも，「人を噛んだイルカ＝危険な存在」という安直な図式は避けるべきであり，沢山の人にイルカという生物を本当の意味で，深く理解してもらうために，様々な方法で普及啓発活動を取り組みました．

（活動実施①）

石川県能登島七尾湾で 17 頭の野生のミナミハンドウイルカが定住している好例の観察

人との共存がうまくできている水中にスノーケルで潜って定点観察・生態に関する撮影が可能（写真 2，写真 3）．

- 繁殖（交尾・妊娠・出産）・子育て（授乳）記録有り
- イルカ死亡個体漂着への対応　国立科学博物館への個体の収蔵の実施
- 地元の方と協力して能登島イルカぬりえ（図１）作成し七尾湾に棲むミナミハンドウイルカの普及啓発活動の実施（のとじま水族館で配布）

写真２　グループで定住する能登島のイルカ
妊娠個体をかばうように泳ぐ姿が観察された．
（提供：金山純子氏）

写真３　能登島イルカのチャコちゃん
妊娠しており，お腹の中には胎児がいる．
（提供：金山純子氏）

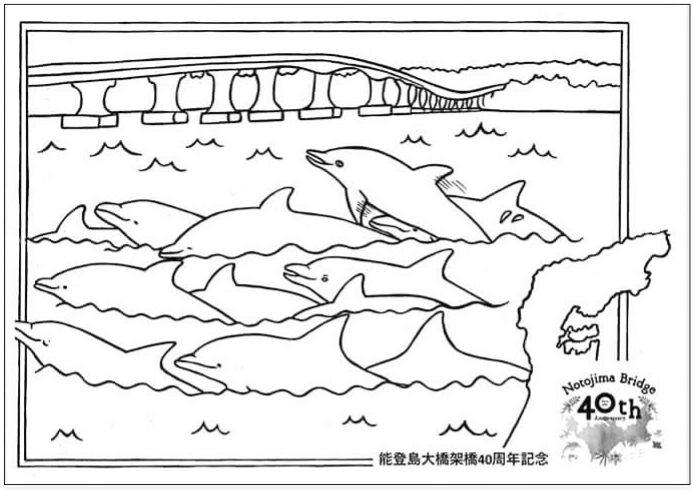
（活動実施②）

学生ダイバーと連携した普及啓発イベント

ダイブプロショップ evis が主催する，blue-print 所属の学生ダイバーと協力し，イルカの生態についての解説や，実際の海に会いに行くスキューバダイビングを利用したアプローチ法の手順を説明する普及啓発 web イベント開催しました（写真 4）．

最後は海洋プラスチックゴミ問題にも触れ，SDGs 環境教育も行いました（写真 5）．

大学生ダイバーが下の世代へのイルカ普及啓発活動を自発的に行えるよう事前に半年ほど大学生



能登島大橋架橋40周年記念

Notojima Bridge 40th Anniversary

能登島大橋架橋40周年とのとじま水族館開館40周年を記念して塗り絵の無料配布を実施しています。
お子様だけでなく大人な塗り絵も最近は大流行！
能登島の塗り絵をご自宅でお楽しみください。

#ハッシュタグキャンペーン
2022年11月1日～2022年12月31日迄にInstagram(インスタグラム)、Facebook(フェイスブック)に塗り絵を完了して下記のハッシュタグにてアップして下さった中から抽選で10名様にお楽しみ商品オンラインギフトにプレゼント！ご当選者には、能登島大橋架橋40周年実行委員会のとじま水族館イベント担当から直接ご投稿の方にメッセージでご連絡させていただきます。

投稿期間: 2022年11月1日～2022年12月31日迄
＊抽選は、2022年1月1日～10日の間に実施し、当選者に投稿サイトにご連絡
投稿先: Instagram、Facebook

#能登島大橋架橋40マリンガール復活

制作・著作能登島大橋架橋40周年実行委員会

塗り絵製作者プロフィール

田中 一秀（KAZUHIDE Tanaka）
通称 ずかんくん
サイエンスイラストレーター
1983年1月12日生まれ
小学四年生～五年生を石川県で過ごし、よく能登島に訪れていた

成蹊学園サステナビリティ教育研究センター客員フェロー
・研究テーマは「海洋生物と海洋環境教材の開発」
・海の生き物をモチーフに手描きの手法で専門家や研究機関とのコラボレーションで作品製作、及び、普及啓発活動を行っている。

所属
日本魚類学会員/日本板鰓類研究会員/稚魚研究会員/日本動物園水族館教育研究会員(JZAE)/海洋生物アウトリーチ研究会員/日本水中科学協会員（JAUS）/日本カブトガニを守る会　福岡支部会員/金生山化石研究会員/アイサーチジャパン（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）会員

水族館活動
2019年より大阪府海遊館の30周年リニューアル事業にて館内「種名板」イラストを手がける

著書
ララうさめのくに（さかだちブックス）

図１　能登島イルカぬりえ
（提供：金山純子氏）

写真４　学生ダイバーとイルカオンラインイベントを開催

写真５　海での取材時、多くの場所でこうした海洋ゴミが溢れていた

写真5　絵本「広い海の青くん」出版
共同著者である水中写真家・水之京子さんと.

ダイバーへイルカ生態教育を行ったうえで，WEBイベントの開催へと進行しました．WEBイベントではオンラインの特性を活かし，遠く離れた成蹊学園在籍の小学生にも参加してもらうことができました.

（活動実施③）

さらに広い層へイルカ普及啓発を広げるため『広い海の青くん』出版

ダイビングのインストラクターであり水中写真家であり，長年海の中の世界を撮り続けてきた水之京子さんと力を合わせイルカ写真絵本製作し出版しました（写真5）．ただの絵本としてだけでなくイルカの生態について深く掘り下げた解説も収録しました[1]．

（活動実施④）

スキューバダイビングをする人たちに，広く発信力を持つ

「ダイビング指導機関NAUI」公式HP「海洋生物コラム」内でイルカの生態について解説し掲載して頂きました[2]．

以上，少しでも多くの世代や立場の異なる方々へ声が届くよう発信活動の展開に努めました．今後は，石川能登島七尾湾で定住する17頭の野生のミナミハンドウイルカを中心に，さらに観察と普及啓発活動を続けていきたいと考えています.

海は，そこに棲む多彩な生物たちが，それぞれに絶妙なバランスで互いに密接に関わり合い，今日まで豊かな生物の多様性を保持させているとても尊い場所です.

SDGsウエディングケーキモデル（図2）[3]の最重要なベース部分「生物圏」に，「14海の豊かさを守ろう」「15陸の豊かさも守ろう」が含まれるように，豊かな生物多様性無くして私たちの持続的な経済発展はありえません.

冒頭に述べたイルカのすずちゃんの名前の由来は，当初発見された石川県珠洲（すず）市にちなみ「すずちゃん」と名付けられました．珠洲の地には須須神社があり，神社がある三崎町寺家地区には「イルカの三崎詣り」という伝説が残っていて，須須神社は「イルカは神の使い」とされている全国唯一の神社と言われています[2]．2020年9月14日の例祭当日には，1896年（明29）の県社昇格慶賀祭以来124年ぶりに，大鳥居の前にイルカが現れました．その後，同地にたびたび現れるようになり親しまれたイルカが，あの「すずちゃん」だったのです.

その場所に生活する生物に対して，敬意の念を無くして「海洋と人の共存」の形は実現できません.

海洋ゴミも依然として，イルカを含めた海洋生物の生活圏のすぐ間際に溢れています．今後も，野生イルカの観察と普及啓発活動を引き続き行い，併せて海洋ゴミ問題についてもサステナビリティ教育の発展に繋がるよう取り組んでいきたいと思います.

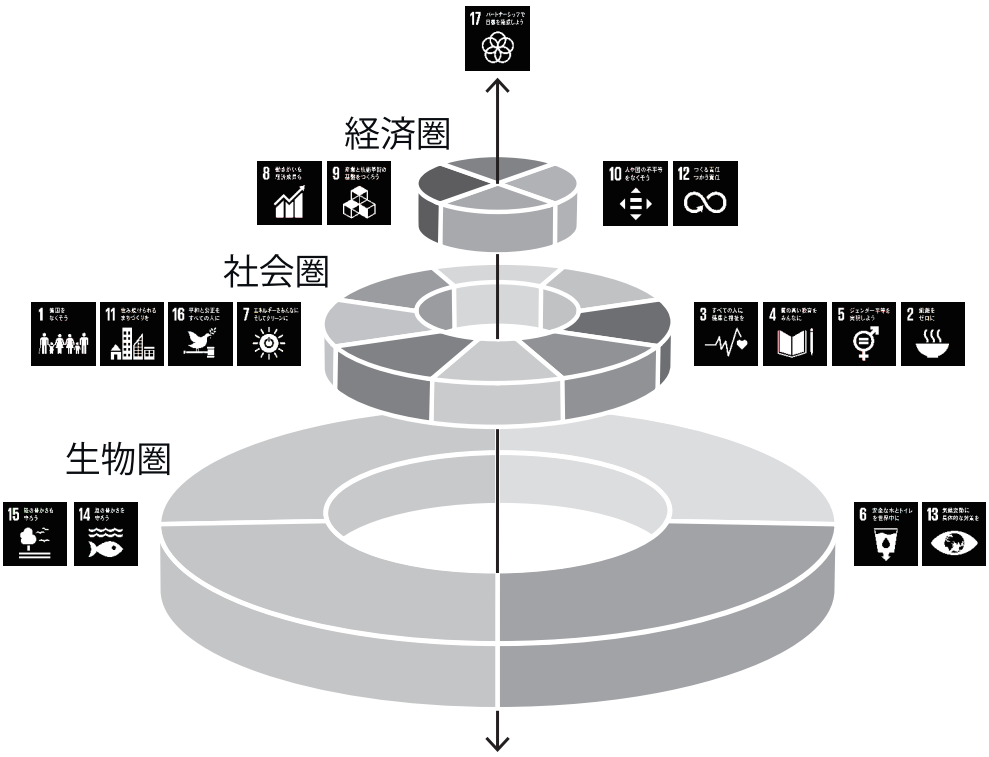


図２　ヨハン・ロックストローム氏らの提唱したウエディングケーキモデル
（Credit: Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University CC BY-ND 3.0.）

謝辞

本稿に関するプロジェクトの進行および執筆にあたり沢山の仲間のお力をお借りしました。この場をお借りして以下にお名前を挙げて感謝申し上げます。

水之京子さん，ダイビング指導機関 NAUI（青鹿紗苗さん），ダイビングハウス SeaMore（中瀬保幸さん・中瀬博美さん），金山純子さん，山水荘「島時間　海の宝を味わう宿」（石田直人さん），ダイブプロショップ evis（加藤大典さん・鐵本菜穂子さん），青山直寛さん（名古屋外国語大学卒業生），大水優佳さん（南山大学），日々野廣丸さん（南山大学），新井翔さん（中京大学），小貫嵩弥さん（名古屋大学），増山龍大さん（中京大学），石原雄志さん（名古屋大学），山本菜月さん（名古屋芸術大学）.

注

1）さく・写真／水之京子，え／ずかんくん『広い海の青くん』Clover 出版，2023 年.

2）「連載コラム！ NAUI ×ずかんくん：沢山知って、ダイビングをもっともっと楽しんじゃおう！」
https://www.naui.co.jp/column/

3）ウエディングケーキモデルとは，スウェーデンの首都・ストックホルムにあるレジリエンス研究所の所長が考案者の一人となった「SDGs の概念」を表す構造モデルです. SDGs の目標 17 をケーキの頂点として、その下にある 3 つの階層「経済圏」「社会圏」「生物圏」によって構成されています．最下層には、目標 6「安全な水とトイレを世界中に」目標 13「気候変動に具体的な対策を」目標 14「海の豊かさを守ろう」目標 15「陸の豊かさも守ろう」の 4 つが含まれています.

4）日刊スポーツ 2023 年 5 月 22 日掲載「イルカ伝説の石川・須須神社『イルカ大杯』が 118 年ぶり再開導く『イルカは神の使い』」による.